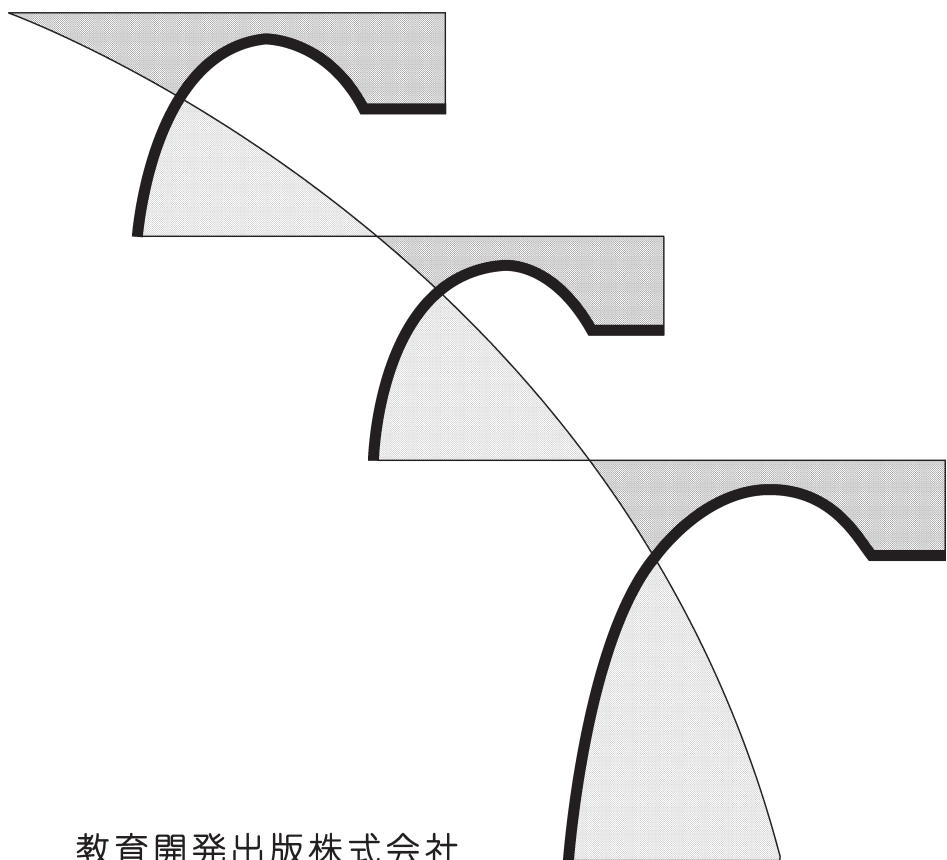


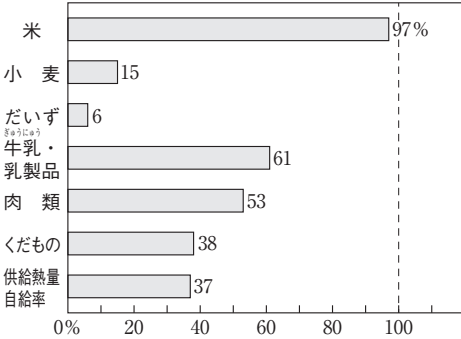
↪ 2023年版 ↩

社会資料集

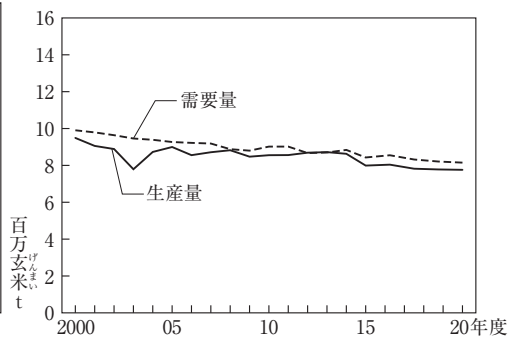


教育開発出版株式会社

●主な食料の自給率（2020年度）

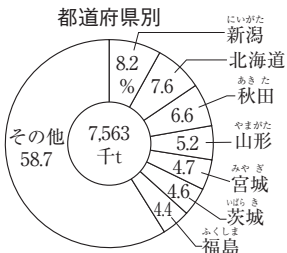
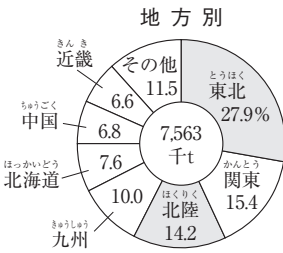


●米の需要と供給のうつり変わり



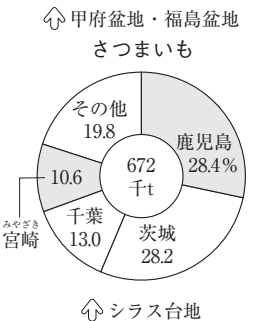
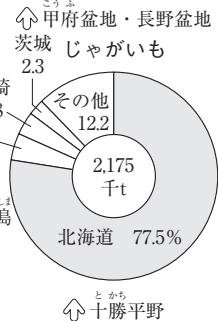
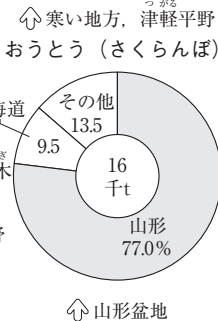
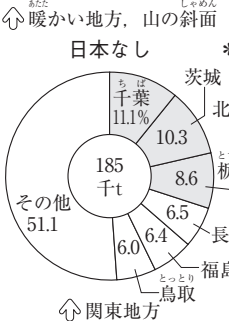
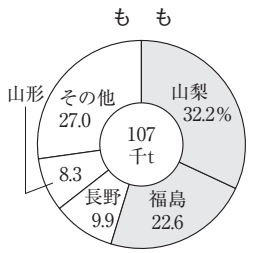
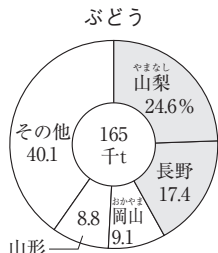
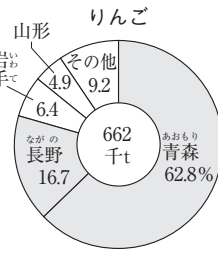
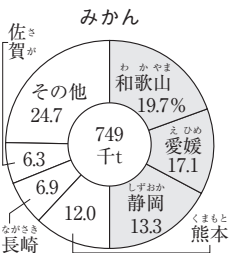
⤴ 食生活の西洋化→小麦は外国産の方が安く、パンの原料に向いている

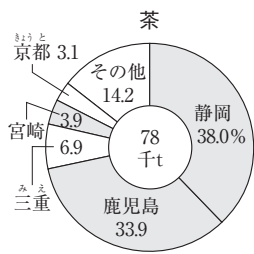
●米の生産割合（2021年）



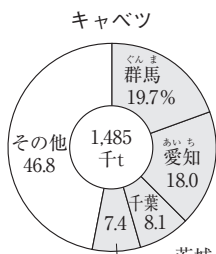
⤴ 東北・北陸…米の単作地帯・わが国の穀倉地帯

●いろいろな農産物と家畜の都道府県別生産・飼育割合（2021年、*は2022年）

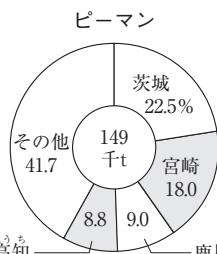




⇩ 牧ノ原・シラス台地



⇩ 高原野菜, 近郊農業



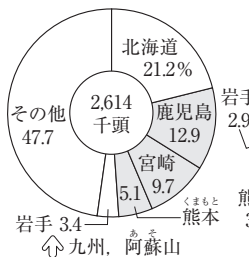
⇩ 促成栽培…宮崎平野・高知平野

* 肉牛

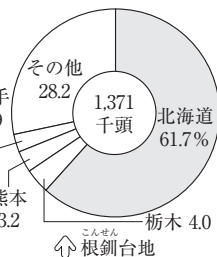
* 乳牛

* ぶた

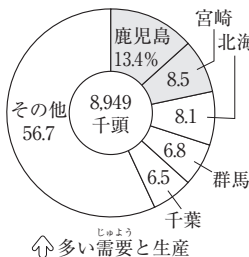
* 肉用若鶏 (ブロイラー)



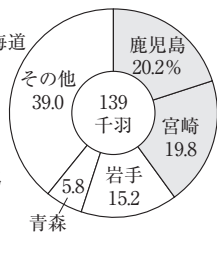
⇩ 九州, 阿蘇山



⇩ 根釧台地



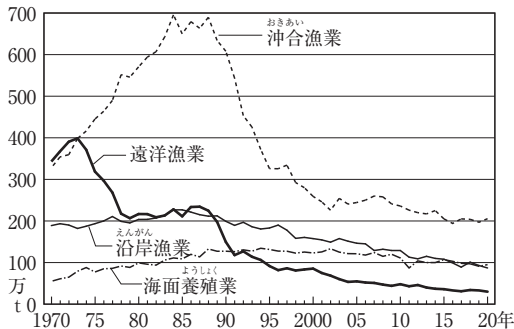
⇩ 多い需要と生産



水産業

● 漁業種類別漁かく量のうつり変わり

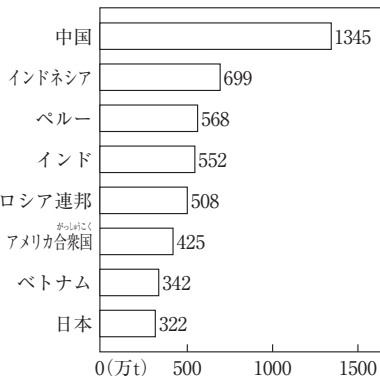
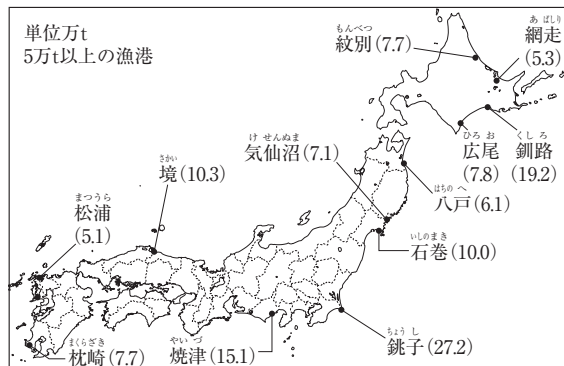
⇩ 沖合漁業



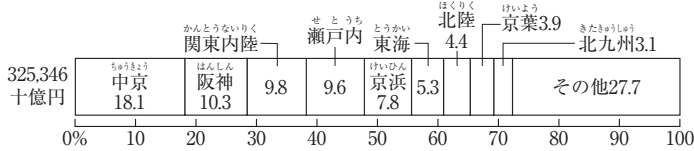
- ・ 30~50kmの沖合で数日間かけて行う…かつお・さんま・あじ
- 遠洋漁業
 - ・ 船団を組み、世界の海で数十日から数か月をかけて行う…かつお・まぐろ
 - ・ 200海里の排他的経済水域の設定による漁かく量の減少→とる漁業から育てる漁業へ…養殖業と栽培漁業

● 主な漁港の水あげ量 (2020年)

● 世界の漁かく量 (2020年)

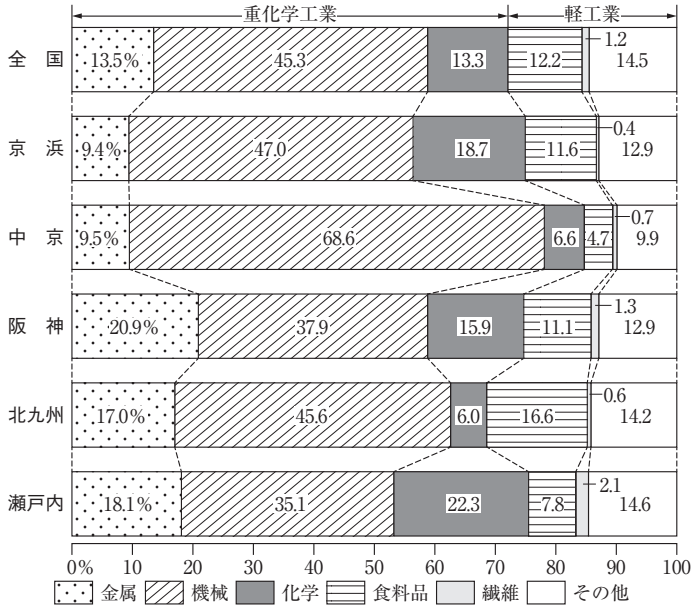


●全国の工業製品出荷額に占める工業地帯・地域の割合 (2019年)



⇨四大工業地帯(・地域)以外の新しい工業地域の発展

●全国と、主な工業地帯・地域の工業種類別出荷額割合 (2019年)



⇨重化学工業が70%以上

⇨機械中心、印刷
(東京都・神奈川県)

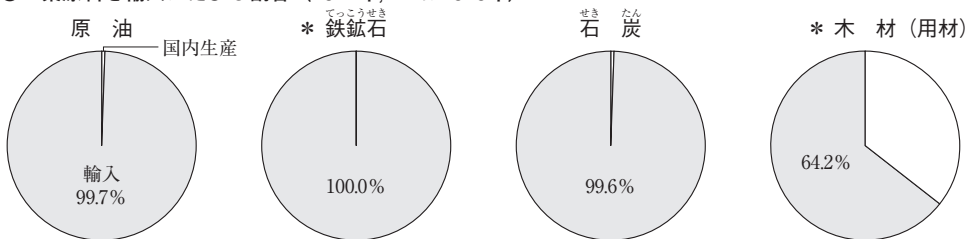
⇨自動車、繊維、陶磁器
(愛知県・三重県)

⇨総合工業地帯、繊維、雑貨
(大阪府・兵庫県)

⇨かつて鉄鋼で発展、食料品
(福岡県)

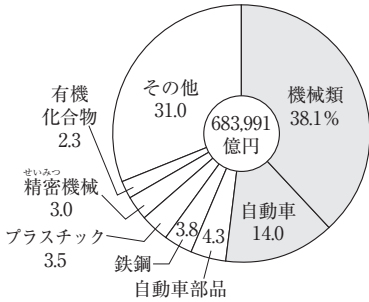
⇨石油化学、繊維
(岡山県・広島県・山口県
愛媛県・香川県)

●工業原料を輸入にたよる割合 (2021年, *は2020年)

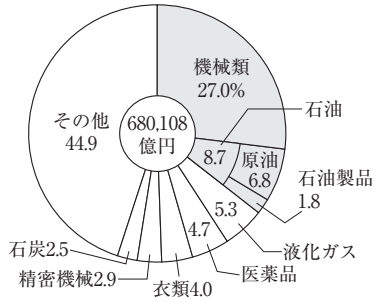


貿易

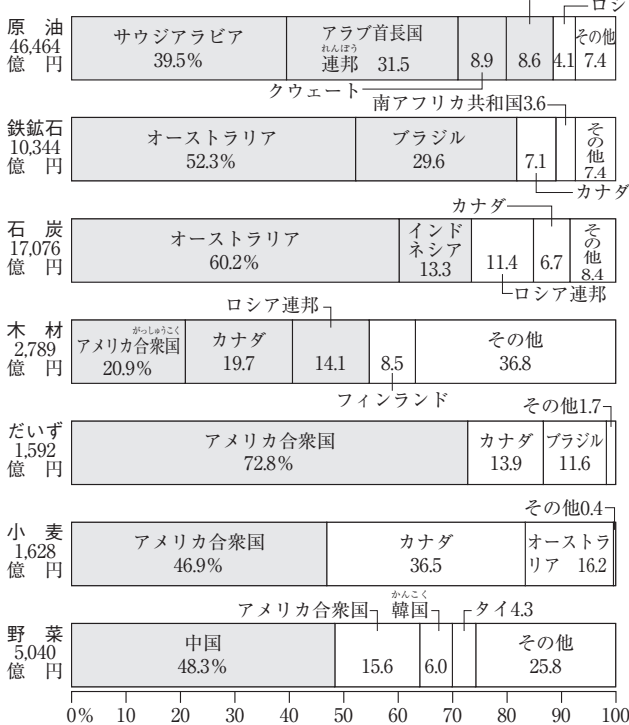
●日本の主な輸出品 (2020年)



●日本の主な輸入品 (2020年)



●日本の主な輸入品の輸入相手国・地域 (2020年)



↳ 西アジアの国々が多い

↳ 石炭・石灰石とともに鉄の原料

↳ 日本国内の主な炭鉱は閉山

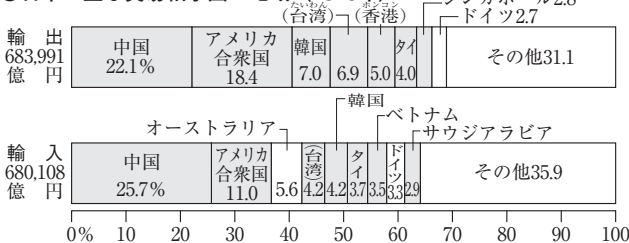
↳ 森林の伐採のしすぎが環境問題となっている

↳ しょうゆ・みそなどの原料

↳ 国内では北海道で半分以上を生産

↳ 近年輸入が増加

●日本の主な貿易相手国・地域 (2020年)



↳ 中国をはじめとするアジアの国々や地域、アメリカ合衆国が貿易の中心

●主な国からの日本の輸入品目(2020年)

国名	輸入額	主要輸入品の輸入額にしめる割合(%)
中国	175,077	機械類48.6 衣類8.4 金属製品3.5 家具2.6 プラスチック製品2.2 がん具2.1
アメリカ合衆国	74,536	機械類25.8 医薬品7.6 肉類5.5 科学光学機器5.3 液化石油ガス3.9 航空機類3.6
オーストラリア	38,313	液化天然ガス33.7 石炭26.8 鉄鉱石14.1 銅鉱5.5 肉類5.1 アルミニウム1.7
韓国	28,416	機械類26.2 石油製品10.9 鉄鋼9.3 プラスチック4.1 有機化合物3.9
ドイツ	22,763	機械類27.4 医薬品21.5 自動車16.2 有機化合物6.4 科学光学機器4.9
サウジアラビア	19,696	原油93.2 石油製品2.1 有機化合物1.2 アルミニウム0.9 銅鉱0.6
マレーシア	17,016	機械類33.4 液化天然ガス24.8 衣類3.9 プラスチック2.9 合板2.4
インドネシア	16,564	機械類14.4 石炭13.7 液化天然ガス5.9 衣類5.8 銅鉱4.0
ブラジル	8,012	鉄鉱石38.2 とうもろこし15.0 肉類10.9 有機化合物6.3 コーヒー4.7 鉄鋼3.0

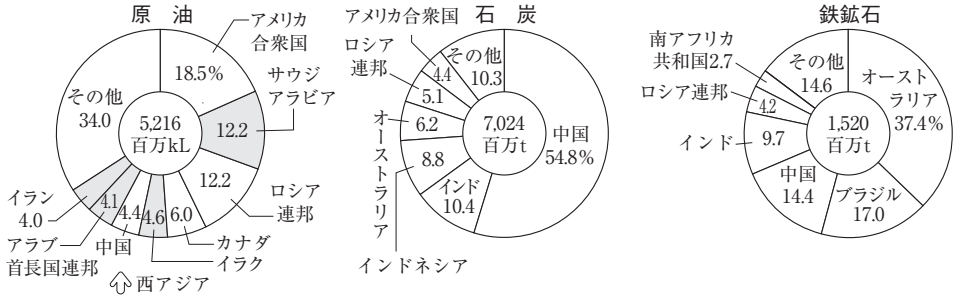
(単位：億円)

●日本の主な貿易港の貿易品目(2020年)

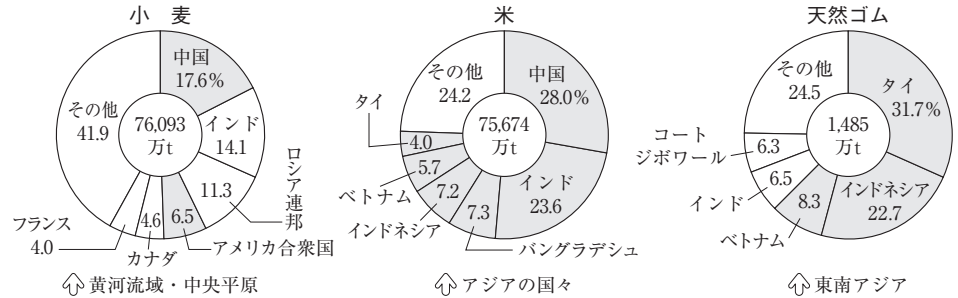
輸出	名古屋	自動車25% 自動車部品17 内燃機関4 電気計測機器3
	成田国際空港	半導体等製造装置8% 金(非貨幣用)8 科学光学機器6 電気計測機器4
	横浜	自動車16% プラスチック5 内燃機関4 自動車部品4
	東京	自動車部品6% 半導体等製造装置5 コンピューター部品5 プラスチック5
	関西国際空港	集積回路22% 科学光学機器6 電気回路用品6 個別半導体5
	神戸	プラスチック7% 建設・鉱山用機械5 無機化合物4 有機化合物3
輸入	大阪	集積回路10% コンデンサー9 プラスチック5 個別半導体4
	成田国際空港	通信機14% 医薬品14 コンピューター10 集積回路8
	東京	衣類8% コンピューター6 肉類5 魚介類4
	大阪	衣類14% 肉類7 家庭用電気機器4 音響・映像機器4 金属製品3
	名古屋	液化ガス7% 衣類7 石油6 絶縁電線・ケーブル5
	横浜	石油6% 有機化合物3 液化ガス3 衣類3 アルミニウム3
関西国際空港	医薬品24% 通信機13 集積回路8 科学光学機器5 コンピューター4	
神戸	たばこ9% 衣類7 無機化合物4 有機化合物4 果実3	

◇成田国際空港・関西国際空港は、小型・軽量で高価なものの割合が高い。

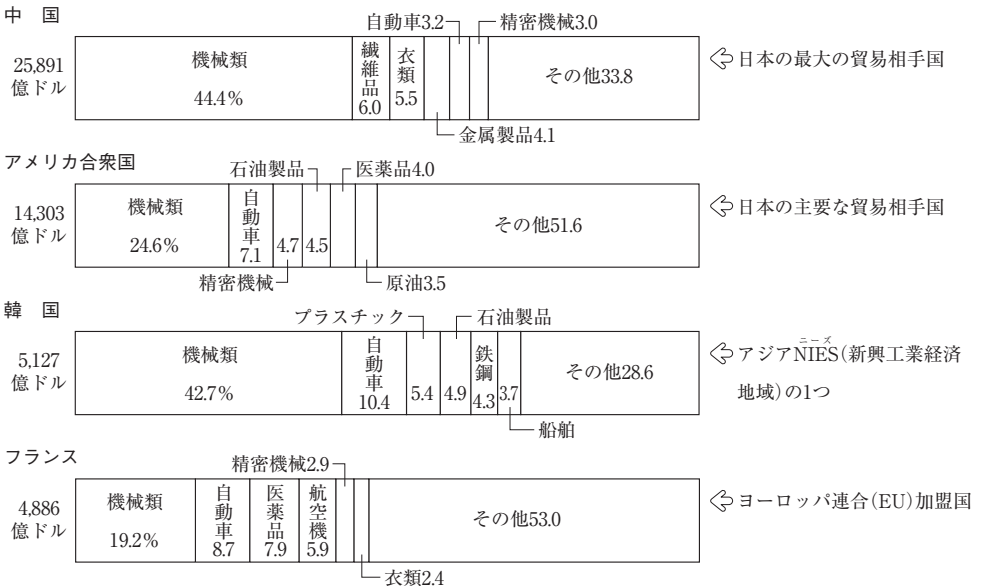
●主な資源の国別産出割合（原油は2021年、石炭・鉄鉱石は2019年）



●主な農産物の国別生産割合（2020年）



●主な国の輸出品目（2020年）



●社会情勢の変化●

- ◎**TPP, RCEP**……2018年12月、アメリカ合衆国を除いた環太平洋パートナーシップ(TPP)協定が発効した。また、2020年11月には地域的な包括的経済連携(RCEP)協定が成立し、2022年1月に発効した。RCEPは世界全体のGDPの約30%をしめる地域の経済連携協定で、日本・中国・韓国・東南アジア諸国連合(ASEAN)諸国などの15か国が署名した。
- ◎**アメリカ合衆国の「パリ協定」離脱と復帰**……2020年11月、アメリカ合衆国は2016年11月に発効した地球温暖化対策の国際的枠組みである「パリ協定」から正式に離脱した(当時はトランプ大統領)。2021年1月にバイデン新大統領が就任し、2021年2月にアメリカ合衆国は「パリ協定」に復帰した。
- ◎**イギリスのヨーロッパ連合(EU)離脱**……2020年1月31日、イギリスはヨーロッパ連合(EU)から離脱した。これによってEU加盟国は27か国となった(2022年12月現在)。
- ◎**参議院の定数変更**……2018年7月に、2019年の参議院議員通常選挙から、参議院の定数を選挙区148人(2人増)、比例代表100人(4人増)の合計248人(6人増)とする改正公職選挙法が成立した。ただし、2019年7月の選挙から2022年の選挙までは、選挙区147人、比例代表98人の合計245人となる。
- ◎**日本の世界遺産**……日本の世界遺産は、2021年に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」と「北海道・北東北の縄文遺跡群」が新たに登録された。これで日本国内の世界文化遺産は20件、世界自然遺産は5件となり、日本の世界遺産は全部で25件となった。
- ◎**岸田文雄内閣発足**……デジタル庁を発足させるなどした菅義偉内閣の総辞職にともなって2021年10月4日に召集された臨時国会で、岸田文雄自由民主党新総裁が第100代内閣総理大臣に指名された。これに続いて、2021年10月31日の衆議院議員総選挙で自由民主党が絶対安定多数の議席を獲得した。その後11月10日に召集された特別国会で岸田文雄総裁が第101代内閣総理大臣に指名され、第二次岸田内閣が発足した。
- ◎**新型コロナウイルスの広がり**……2019年に中国で初めて確認され、世界各地に広まった。その後、デルタ株やオミクロン株などの変異株も現れた。
- ◎**ロシアのウクライナ侵攻**……ウクライナ政府軍と親ロシア派勢力の紛争が激しくなる中、2022年2月24日、ロシア軍はウクライナへの侵攻を開始した。ロシアはウクライナ東部と南部の4州の併合を目指す一方、ウクライナはNATO(北大西洋条約機構)などの支援を受けて戦いを続けている(2022年12月現在)。
- ◎**西九州新幹線の開業**……2022年9月23日、佐賀県武雄温泉駅と長崎駅を結ぶ西九州新幹線が開業した。営業キロ69.6kmは、全国の新幹線の中で最短である。

●出典●

2022年版	日本のすがた
2022/23年版	日本国勢図会
2022/23年版	世界国勢図会
2023年版	データでみる県勢
第7版	数字でみる日本の100年

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/index.html>(農林水産業の統計)

<https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/kougyo/result-2.html>(工業の統計)